

児童ホーム 自己評価 (令和4年度)

※評価記入欄

A (できている)、B (ほぼできている)、C (あまりできていない)、
D (全くできていない)、該当しない場合は「-」

評価項目		評価 (A~D) 記入欄	評価の理由や取組内容等
施設 設備及 び	(1)	室内のレイアウトや装飾、採光等にも配慮し、児童が心地よく過ごせるように工夫されている。	A 各所定期的に季節感にあった装飾等工夫し、掲示を行っている。作業時間の確保が難しく施設の老朽化等の課題もある。
育成 支援の 内容	(1)	児童の出欠席について保護者からの連絡を確認するとともに、連絡なく欠席したり来所が遅れていたたりする児童については、速やかに状況を確認し適切に対応している。	A 出欠確認等遅滞なくおこなっており、登所予定者の不在時等保護者・学校への連絡等速やかにおこなっている。
	(2)	児童が安心できるように迎え入れ、児童一人ひとりの心身の状態を把握し、適切に援助している。	A 心身の状態など児童の様子に気を配り、支援員同士の情報共有を図っている。要支援児童への対応時等、職員不足になることがある。
	(3)	遊びや生活の場面における児童の状況や体調、情緒等を把握し、静養や気分転換が必要などときには適切に対応している。	B 学校との連携により児童の体調を把握し、無理のないスケジュールで外遊びを見学させたりする等、柔軟に対応している。
	(4)	児童全体に共通する生活時間の区切りをつくり、柔軟に活用して児童が放課後の時間を自己管理できるよう援助している。	A その日の予定や流れをボードに書いて説明し、子どもたち自身が自己管理できるよう意識づけに努めている。
	(5)	児童ホームでの生活を通して、日常生活に必要な生活習慣を習得できるようにするとともに、児童が集団で一緒に過ごす上で求められる協力及び分担や決まりごと等を理解できるように支援している。	A 各種イベント等を通して集団で活動することにより、お互いの理解、助け合い、上の子が下の子の面倒を見るなど、児童ホームで協力し合うことを日常として過ごさせている。
	(6)	年齢や発達状況が異なる児童と一緒に生活していることを考慮し、児童が協力し合って児童ホームの生活を維持していくことができるよう支援している。	A 異学年で活動する機会や班設定をする等活動の支援をおこなっているが、支援員が不足し対応が難しい時もある。
	(7)	遊びや生活の中で生じる意見の対立やけんかなどについては、お互いの考え方の違いに気付くこと、葛藤の調整や感情の高ぶりを和らげること等ができるよう適切に援助している。	A アンダーコントロールの実践をうながしている。双方の意見を聴取し、事実関係を把握し適切に支援している。
	(8)	児童間でいじめ等の関係が生じないように配慮するとともに、万一そのような問題が起きたときは早期対応に努め、支援員が協力して適切に対応している。	A 児童の些細な変化や行動に注意を払い、支援員同士の情報共有に努め、対応についても明確に行うようにしている。

※評価記入欄

A (できている)、 B (ほぼできている)、 C (あまりできていない)、
D (全くできていない)、 該当しない場合は「-」

評価項目		評価 (A～D) 記入欄	評価の理由や取組内容等
障がいのある児童への対応	(1)	障がいのある児童の受け入れにあたっては、児童の健康状態、発達の状況、家庭の状況、保護者の意向等を把握している。	A 学校や保護者から得た情報を支援に活かすように努めているが、児童の特性や環境により集団の中での支援が難しい場合もある。精神状態や健康状態に気を配り対応することができた。
	(2)	継続的な育成支援を行うために、障がいのある児童について児童ホームでの状況や育成支援の内容を記録している。	B 障がいのある児童については、日誌の裏面や専用のノートを作成し、毎日の様子を記録したうえで、支援員間で共有している。
	(3)	障がいのある児童の育成支援を行うにあたって、研修等を通じて障がいについて理解を深めることに努めている。	B 市や県が主催する研修に参加し障がいへの理解を深めるとともに、児童ホームにおいて他の支援員間での情報共有及び主任からの支援指導に活かされている。
児童に配慮を必要とする児童への対応	(1)	児童虐待の防止等に関する法律に基づき、児童ホームにおける児童の状態や家族の状況の把握により、児童虐待の早期発見に努めている。	B 児童を観察している中で違和感を感じた際は、支援員間で情報共有し、より多くの目で児童の様子を見るよう心掛け、早期発見に努めている。
保護者との連携	(1)	児童ホームにおける児童の遊びや生活の様子を日常的に保護者に伝え、児童の状況について家庭と児童ホームで情報を共有している。	A 可能な限り保護者にその日の様子を伝えられるよう情報共有に努めているが、利用の多い日などでお迎えが重なった時は、対応が難しいこともある。
	(2)	育成支援を通じて保護者との信頼関係を築くことに努めるとともに、保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。	B 日常的な挨拶や声掛けを通して、保護者と支援員が話しやすい雰囲気を作れるよう心掛けている。
	(3)	保護者から相談がある場合には、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に保護者の自己決定を尊重して対応している。	A 保護者の意見や考えを真摯に受け止め、保護者の意思を尊重し、決定・解決となるよう努めている。
学校及び連携地域	(1)	児童の生活の連続性の観点から、児童の生活の様子や注意すべき点等について学校との情報共有を日常的、定期的に行っている。	B 学校に対して積極的にアプローチを行い、情報共有ができていない児童ホームもあるが、連携を取ることに苦慮している児童ホームも散見される。
	(2)	放課後子ども教室を実施している学校については、教室のスタッフと支援員との間で情報交換を行い、教室への参加児童を把握するほか、配慮を必要とする児童の対応や児童の体調面等についての情報共有を図っている。	B 年度初めに打ち合わせを行うなど、相互理解を図っており、参加している児童の情報共有がなされている。

※評価記入欄

A (できている)、 B (ほぼできている)、 C (あまりできていない)、
D (全くできていない)、 該当しない場合は「-」

評価項目		評価 (A～D) 記入欄	評価の理由や取組内容等
衛生管理及び安全対策	(1)	手洗いやうがいを励行する等、日常の衛生管理に努めるとともに、おやつを提供する際には衛生管理及び児童ホームとしての食物アレルギー対応を徹底している。	A 日常の衛生管理について声掛けする等しながら衛生管理に努め、アレルギー対応についてはおやつ用意時、徹底した取り組みがなされている。
	(2)	日常の遊びや生活の中で起きる事故やケガを防止するために、室内及び屋外の環境の安全性について毎日点検を行っている。	B 開所時・外遊びの時間等、室内の安全点検を行っている。室外の遊具やグラウンドの点検までは行えないことがある。ただし、日常的な声掛けにより危険回避の自己判断ができるように支援している。
	(3)	児童の年齢や発達状況に応じ、児童が自らの安全を守るための行動について学習し、習得できるように援助している。	B 火災や地震を想定した避難訓練のほか、不審者侵入対策訓練を行い様々な場面を想定した訓練を定期的実施している。
	(4)	児童ホーム内での感染症の拡大を防ぐような取り組みを行っている。	A 手洗いの励行、手指消毒、マスクの着用、黙食の徹底のほか常時換気やおもちゃの消毒を行い感染拡大防止対策を講じている。
職場倫理及び事業の向上	(1)	支援員の言動は児童や保護者に大きな影響を与えるため、仕事を進める上での倫理を常に自覚し、育成支援の内容の向上に努めている。 ※自覚すべき事項 ・児童や保護者の人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重している。 ・児童虐待等の児童の心身に有害な影響を与える行為をしていない。 ・国籍、信条又は社会的な身分による差別的な扱いをしていない。 ・守秘義務を遵守している。 ・個人情報適切に取り扱い、プライバシーを保護している。 ・保護者に誠実に対応し、信頼関係を構築するよう努めている。 ・支援員間で相互に協力し、研鑽を積みながら、育成支援の内容の向上に努めている。 ・児童ホームの社会的責任や公共性を自覚している。	A 打ち合わせや支援員会議にて、支援内容の充実を目指し、十分な情報共有や対応方法の具現化に努めながら支援員としての力量を高めるよう努めている。 また、守秘義務の遵守、個人情報の取り扱い等、個人の支援員が倫理を自覚し、各児童ホームで最善の支援ができるよう支援員間でも相互協力を努めている。
	(2)	児童や保護者等からの要望や苦情に対しては、迅速かつ適切に、誠意を持って対応している。	A 保護者からの要望については支援員間で対応について協議を行い、苦情に関しては真摯に保護者の話に耳を傾け、相手の立場に立った対応を心掛けている。
	(3)	要望や苦情については、その内容や対応について支援員間で共有することにより、育成支援の内容の向上に生かしている。	A 迅速に支援員間で周知し、出勤していない支援員に対しても日誌等を活用し情報を共有している。
	(4)	研修等を通じて、放課後児童の育成支援に必要な知識及び技能の習得、維持及び向上に努めている。	B 積極的に研修に参加し、習得した知識は支援員間で共有を図り、資質向上を図っている。